

Special Need Education Research Center

SNERC通信

(第18号-2010年10月)

国立大学法人 筑波大学
特別支援教育研究センター
センター長：河内 清彦
〒112-0006 東京都文京区小日向2-16-15
TEL&FAX：03-3942-6923
<http://www.human.tsukuba.ac.jp/snerc/>
mail：snerc@human.tsukuba.ac.jp

■ 巻頭言**「原点に回帰する～筑波大学特別支援教育研究センターの使命とは～」****筑波大学特別支援教育研究センター 安藤 隆男**

筑波大学特別支援教育研究センター(以下、本センター)は、平成16年4月の開設以来、本年度で7年目を迎えました。この間、平成19年度、20年度には、筑波大学の関連教育組織が改組されたこと、本年1月からの障害者制度改革推進会議が立ち上がり、特別支援学校への厳しい意見が提出されたことなど、学内外の情勢は大きく変化しました。

本来、本センターは、障害科学系の学術研究と附属特別支援学校5校の実践研究との往還の下、『特別支援教育に関わる新たな知の創成と発信』を使命とし、存立の基盤を両者との関係性に置くものです。時が経ち、諸情勢が変化しても、本センターの使命は何ら変わるものでなく、大学及び附属特別支援学校との相互信頼と協働に基づき、変化の中で新たな課題に対して叡智を結集していかなければなりません。

そのよう中、最近、本センターの存在や役割が見えにくいとの指摘が寄せられております。

私事で恐縮ですが、それまでの筑波キャンパスと本センターの勤務に加え、平成18年4月には、附属桐が丘特別支援学校長を拝命いたしました。私自身の能力や時間的な問題から、たいへんな不安を覚えました。最後には覚悟をもって拝受したことを記憶しております。爾来、このことは私の原点であり、行動の指針としておりましたので、先の指摘は私にとっては何よりも心を揺さぶられるものであります。

今後、国立大学法人の財政運営がさらにきびしくなることが予測される中で、筑波大学はもとより、附属学校の存在意義もさらに問われることになるでしょう。私たち特別支援教育研究センターの教職員は、改めて本センターの使命を自覚し、原点回帰を図ることが求められております。まずは、謙虚に関係者に耳を傾け、信頼の回復に努めることが肝要であると考えているこの頃です。



■ 平成 22 年度 免許法認定公開講座、免許法認定講習について

筑波大学免許法認定公開講座は、平成 16 年の特別支援教育研究センター開設を期に、障害科学系、附属障害 5 校、特別支援教育研究センターの連携のもと、実質上の企画運営を本センターが行ってまいりました。今年度は、茗荷谷キャンパスの建て替えに伴い、神保町キャンパスで行ったため、開講する講座を縮小し、6 日間 11 講座で実施しました。

また、単年での実施になりますが、文部科学省の特別支援学校教員専門性向上事業の委託を受けて、筑波大学免許法認定講習を実施しました。視覚特別支援学校、聴覚特別支援学校、桐ヶ丘特別支援学校で行われ、10 日間 3 講座を実施しました。

各講座共に、猛暑の中、熱気があふれる講義となりました。障害科学系の先生方、視覚特別支援学校、聴覚特別支援学校、桐ヶ丘特別支援学校の先生方、また、ご協力くださった先生方には深く感謝申し上げます。

■ 現職教員研修前期研修成果報告会・修了式・中間報告会

9 月 10 日（金）、402 講義室において、今年度の現職教員研修中間報告会が開催されました。9 月で研修を修了する皆川友紀子さん（秋田県立豊学校）が 6 ヶ月間の研修成果を報告しました。また、1 年研修を行っている研修生は、それぞれ中間報告を行いました。前期研修終了生、研修生の研修テーマは以下のとおりです。



- 「生活言語の定着のための個別指導の支援について」
秋田県立豊学校 皆川友紀子 （指導教員 左藤敦子）
- 「知的障害特別支援学校における一人ひとりの学びを高める集団活動のあり方と効果の検討」
長野県立小諸養護学校 上田日登美 （指導教員 藤原義博）
- 「知的障害特別支援学校の集団学習における主体的な活動を高める支援の在り方～物的環境支援と人的支援の工夫と効果の検討」
秋田県立比内養護学校かづの分校 工藤智史 （指導教員 藤原義博）
- 「知的障害特別支援学校高等部生徒がスムーズに社会へ移行できる力をつけるために～職業教育・作業学習の授業づくりにおける一用菜視点と、その検証～」
静岡県立富士特別支援学校 齋下徹 （指導教員 藤原義博）
- 「特別支援学校（肢体不自由）におけるキャリア教育プログラムの作成と効果の検証ーキャリア教育の視点を取り入れた個別の教育支援計画ー」
埼玉県立宮代特別支援学校 成田晶子 （指導教員 安藤隆男）
- 「脳性まひ児の障害特性に応じた書くことの指導について」
千葉県立袖ヶ浦特別支援学校 藺牟田明 （指導教員 安藤隆男）
- 「一貫した支援のための効果的な連携方法の構築ー身体の動きを通じた自立活動部としての役割ー」千葉県立松戸特別支援学校 中本千絵 （指導教員 安藤隆男）

■ 現職教員研修生の「研修日記」

今年度の現職教員研修生は各附属での実習、特別支援教育専攻の講義、特別支援教育研究センターでの演習等を通じて研修を深め、9月10日には中間発表会が行われました。今回は聴覚特別支援学校で実習行っている皆川さんから「現職研修生日記」に寄稿していただきました。

【 現職教員研修生から 】

この研修期間で得た宝は、聾教育の携わる先輩の先生方の貴重な授業をたくさん見て、お話をお聞きできたことです。聾学校での勤務経験も少なく言語指導に悩んでいる私のような教師にとって、ベテランの先生の授業の参観はこれからの教師生活を送る上で大変な財産です。お忙しい中、たくさんの授業を参観させていただき、有り難く思っています。

最近参観させていただいてお話を聞いた中で印象的だったのが「読み書きやコミュニケーションの力は、自分で危機感（必要感）をもたないと身に付かない。良いドキドキ、悪いドキドキを小さいころから体験して、考えることが必要だ。」という言葉です。社会との関わりや交流の中で、考えて解決していくことがキャリア教育にもつながるということですが、ダイナミックな体験でなくとも、参観させていただいているベテランの先生の日々の授業の中にも、子どもに考えさせるような教師の問いがたくさんありました。良いドキドキ、悪いドキドキもちりばめられ、子どもにとって緊張感のある授業が展開されています。ドキドキする気持ちと共に、日本語を学び使っていく「生みの苦しみ」を現場に帰ってから子どもと共にたくさん作っていったらと思います。



秋田県立聾学校 皆川友紀子

■ 連携研究について

特別支援教育の充実、そして、専門性の継承・発展等を目的とした筑波大学附属特別支援学校での研究および附属学校間で連携して行う研究を、助成研究・連携研究として位置づけています。センターでは研究の推進を図ると共に、経費的補助を行っています。今年度は、以下の連携研究が進められています。これらの研究成果については、3月に予定しているセミナーおよび、「筑波大学特別支援教育研究」（研究紀要）において、発信する予定です。

- ①知的障害特別支援学校における重複障害児への認知学習プログラムに関する研究
(附属大塚特別支援学校・附属桐が丘特別支援学校)
- ②視覚障害教育で開発された教育的アセスメント・教材教具等を見えにくさのある肢体不自由児へ適用し、有効性を検証する
(附属桐が丘特別支援学校・附属視覚特別支援学校)
- ③小中学校の「特別支援教室」に求められる役割と機能について～その（1）附属学校の教材教具の集約と、それを整備したリソースルームの試み～
(附属大塚特別支援学校・附属視覚特別支援学校・文京区立柳町小学校)

第12回 筑波大学特別支援教育研究センター主催セミナー開催のお知らせ

シリーズ：特別支援教育の展開 (1)
「特別支援教育の課程を卒業した青年の現状と課題」

【セミナーの主旨】

平成19年度に改正学校教育法が施行され、特別支援教育が本格的に始動し、平成21年3月には特別支援学校の学習指導要領が新しく告示されました。この中では、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことの重要性が述べられています。また、今回の改訂における基本方針の一つとして、社会の変化や障害の重度・重複化や多様化などに対応し、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育や支援の充実が示されています。

これらのことを受け、当センターでは新たに「特別支援教育の展開」と題したセミナーをシリーズで企画することとなりました。その初回である今年度は、“特別支援教育の課程を卒業した青年の現状と課題”というテーマを設定して、仙台市発達相談支援センターアーチル主査齋藤まりこ氏をお迎えし、以下のような内容で開催するはこびとなりました。

1. 日時 平成22年11月27日(土) 14:00～16:10
2. 場所 筑波大学附属視覚特別支援学校 体育館
(東京都文京区目白台3-27-6)
3. プログラム
 - 13:30～14:00 受付
 - 14:00～14:15 開会挨拶・趣旨説明
 - 14:15～15:45 講演 「成人期の発達障害のある方たちの生活とその支援」
齋藤 まり子 氏 (仙台市発達相談支援センターアーチル主査)
 - 15:45～16:00 質疑応答
 - 16:00～16:10 閉会挨拶
4. 定員 200名 (申込不要)
5. 参加費・資料代 無料

*受講に際して、特別な配慮を必要とする方は、11月18日(木)までに下記へご連絡ください。

主催 筑波大学特別支援教育研究センター
後援 国立大学法人障害児教育関連センター連絡協議会

会場案内図



アクセス
東京メトロ有楽町線護国寺駅下車4番出口より徒歩約7分

〔問い合わせ先〕
筑波大学特別支援教育研究センター
TEL 03-3942-6923 / 6937
FAX 03-3942-6938
E-mail snerc@human.tsukuba.ac.jp
URL http://www.human.tsukuba.ac.jp/snerc/

SNERC
Special Needs Education
Research Center